

環境会計

2017年度実績概況

2017年度の環境会計は、環境保全のための投資は前年度に対し減少しましたが、費用及び環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)は増加となりました。

環境保全のための投資が事業所エネルギー監視設備などで76百万円、費用が、製品・部品・トナーカートリッジ等消耗品のリサイクル費用など581百万円及び省エネや大気・水質汚染対策、他529百万円で、合計1,110百万円となりました。また、環境保全対策に伴う経済効果は、実質的効果としてリサイクル活動による事業収益など761百万円となりました。

今後も環境経営活動を経済面から適切に把握、発信し、効率的かつ効果的な環境保全への取り組みに努めていきます。

環境保全コスト<対象期間：2017年4月～2018年3月>

事業活動別 分類		環境投資額 (百万円)	環境費用 (百万円) ^{※1}
	主な取り組みの内容		
事業エリア内コスト(主たる事業活動(製造、加工、販売、物流など)領域で生じるコスト)		76	372
①公害防止コスト	大気汚染・騒音防止	42	30
②地球環境保全コスト	省エネルギー機器の整備	31	226
③資源循環コスト	産業廃棄物・一般廃棄物の処理・減量化・リサイクル	3	116
上・下流コスト ^{※2}	製品、部品、消耗品の回収・リサイクル	-	581
管理活動コスト	事務局運営費、環境情報公表	0	148
研究開発コスト	環境負荷低減のための研究開発	-	3
社会活動コスト	環境保全活動団体への参加、寄付、支援	-	6
合 計		76	1,110

※1 費用には減価償却費が含まれています。

※2 主たる事業活動の前後の領域で生じるコスト。

環境保全対策に伴う経済効果＜対象期間：2017年4月～2018年3月＞

効果の内容		金額 (百万円)
実質的効果(環境保全対策を進めた結果として利益に貢献した効果) ※3		
収益	使用済み製品などのリサイクルによる事業収益など	732
費用節減	省エネルギー活動に伴う費用節減	26
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の節減など	3
合 計		761

※3 経済効果については昨年度より推定的効果を含まない実質的なもののみを対象としています。

環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2016年度	2017年度	環境保全効果※4
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	水資源投入量	千m ³	523	506	17
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO ₂ 排出量※4	トン-CO ₂	36,682	36,597	85
	廃棄物等排出量	トン	3,571	4,653	-1,082

※4 電力のCO₂排出量の算定については、GHGプロトコル計算ツールで公開されている各国係数を適用しています。詳細は「環境データ」の「算定基準」をご参照ください。

環境会計の集計範囲：カシオ計算機株式会社と国内・海外の連結子会社
参考ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」